

1. センターの運営体制

ボランティア・NPO 活動センターでは、ボランティア・NPO 活動センター委員会、ボランティア・NPO 活動センター会議、学生スタッフ会議、スタッフ会議の4つの会議を運営するなかで、様々な事業を教員、職員、学生の三者が協働で進めています。開催はオンラインも併用しつつ、会議によっては対面形式で実施しました。また昨年度に引き続き、今後のセンター発展のために何が必要か、現状の課題やそのあり方を考える会議『ボラセンのこれからを考える会議』を開催しました。

ボランティア・NPO 活動センター委員会 (通称：センター委員会)

センター委員会は、教職員で構成する公式の学内組織で、センターの運営や各種事業についての審議や報告を行ないます。この委員会には、学生スタッフ代表のオブザーバー参加を認めており、学生スタッフが企画するボランティアプログラムなどの企画提案や報告を学生スタッフ自らが行ないます。

2023年度は在籍学舎の異なる委員が円滑に参加するため、全面オンライン形式（Zoom）で開催しました。全ての会で学生スタッフ幹部がオブザーバー参加し、企画したプログラムの提案や報告を行ないました。

センター委員会では、委員からセンター事業に対する意見はもちろん、学生スタッフ企画へのアドバイスなどがなされます。

ボランティア・NPO 活動センター会議 (通称：ボラセン会議)

ボラセン会議は、正副センター長とセンタースタッフ、学生スタッフで構成し、センター長進行のもと、学生スタッフの企画やセンター事業の報告・連絡などを行ないます。原則毎月、深草・瀬田のいずれかのキャンパスで交互に開催しました。

今年度より原則対面参加とし、授業の都合等で対面参加がかなわない学生のためオンライン参加も可となりました。



学生スタッフミーティング (通称：学スタ MT)

学スタ MT は、キャンパスごとに、放課後に学生スタッフ企画やセンターの運営についての話し合いや情報共有をしています。

新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられた5月以降、対面での実施を基本とし、深草は対面のみ、瀬田はオンライン併用で実施しました。

各キャンパスの特性に応じた形で、幹部を中心に運営形式を全員で考えながら取り組むことができました。



スタッフ会議

スタッフ会議は、正副センター長とセンタースタッフで構成し、主にセンター委員会やボラセン会議の前に、その資料や次第の確認、センター事業や運営について検討しています。コロナ禍以前は、対面での開催でしたが、この3年でオンライン開催が定着しました。

ボランティア・NPO 活動センターのこれからを考える会議（通称：ボラこれ会議）

センター開設20周年を機に、ボラこれ会議を開催してきました。

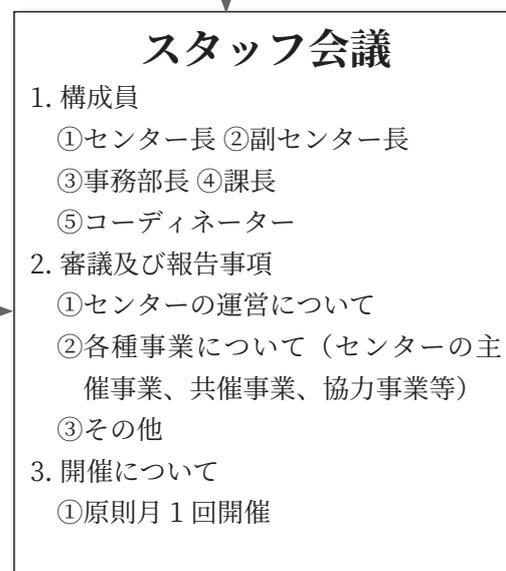
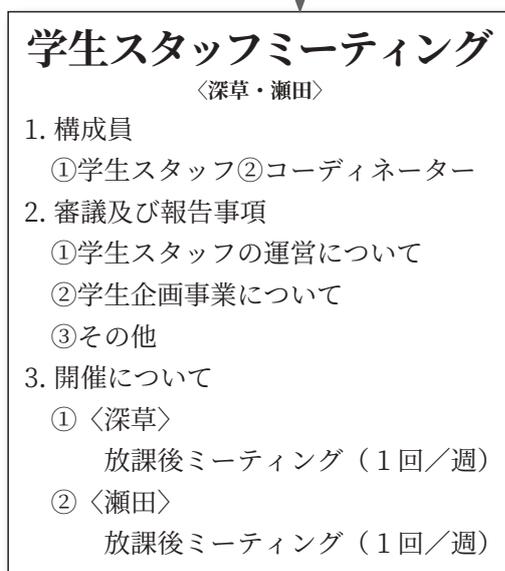
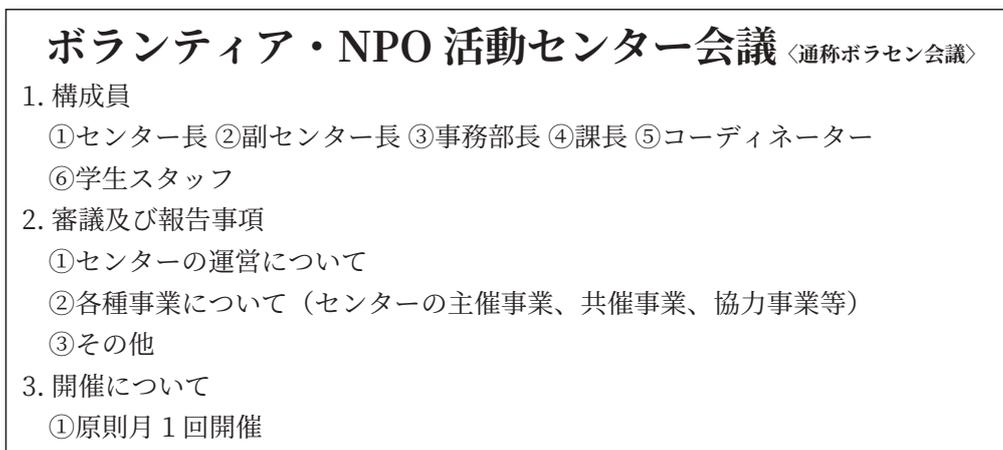
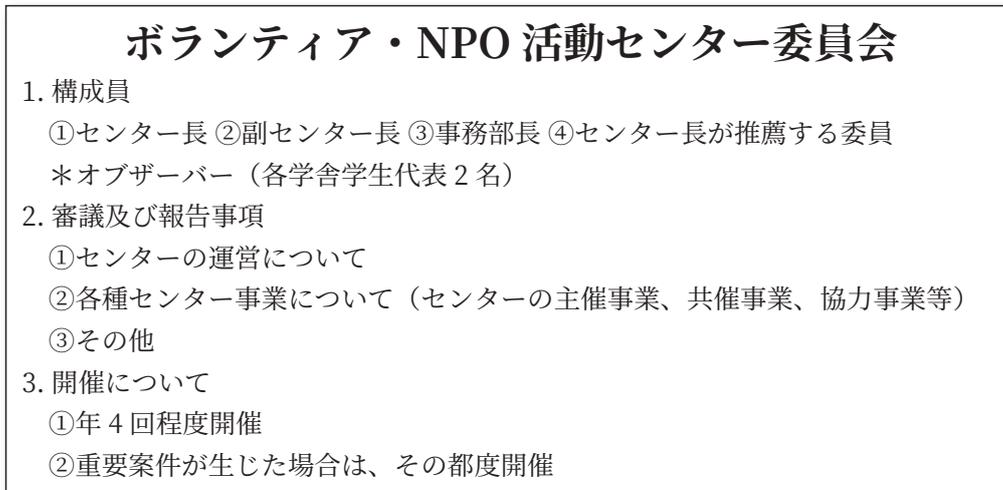
2023年度の第1回目（2023年8月9日）では、「社

会学部深草キャンパス移転に伴うセンター運営体制の検討」をテーマに、2年後に迫った社会学部移転に伴う諸課題について話し合いました。第2回目（2023年12月26日）でも引き続き社会学部移転に伴う諸課題について議論し、移転前年である2024年度から準備をしっかりと進めていくという方向性を決めました。

今後も、スタッフ会議だけでは議論する時間が少なくじっくりと腰を据えて意見をかわすことができない案件については、このボラこれ会議を活用することで、諸課題の解決を目指したいと考えています。また、オンラインでは対話がしづらいこともあるため、できるだけ全員が集い、対面で話し合える環境づくりに配慮したいと考えています。

ボランティア・NPO 活動センター 会議組織図

2023年4月28日修正



【2023.4 修正箇所】

1. センター委員会・ボラセン会議・スタッフ会議の「事務部長（次長）」を「事務部長」に修正
2. スタッフ会議の「⑤課員」を削除

2. ボランティアコーディネーション (ボランティア相談・センター事業の広報)

ボランティア・NPO 活動センターでは、ボランティア活動を希望する学生へ情報提供等を行ない、地域団体からはボランティア募集の相談に応じるなど、この両者をつなぐ役割を担っています。

センターには学生スタッフが所属しており、相談に来室する学生の初期対応を担い、同じ学生ならではの視点でボランティア活動の紹介を行なっています（ピアサポート）。その他の専門的な知識が必要なケースはボランティアコーディネーター（専門職務職員）が対応しています。さまざまな相談対応を通して、ボランティアへの理解と参加の促進に努めており、これらの活動を「ボランティアコーディネーション」と呼んでいます。

学内にセンターが存在することにより、学生や教職員の自発的かつ主体的なボランティア活動へのアクセスが容易となり、地域貢献にもつながっています。また、これらの活動を通して、学生自身の成長にもつながっています。

2023年度は、対面での課外活動の制限が撤廃された影響もあり、学生の活動意欲も高まりを見せ、相談件数が前年度に比べて増加しました。コロナ禍以前の水準に迫る件数となり、学生の何かしたい！という想いがより強く感じられた1年になりました。

また広報手段に関して、従来のポスター掲示等も行ないながら、引き続き SNS や HP などを活用しました。中でも X はフォロワー数が1,400名を超え、有用な広報ツールとして機能しています。今後も状況を見ながら、学生の希望に沿ったボランティアコーディネーションができるよう、試行錯誤を続けていきます。

ボランティアコーディネーション集計（月別、活動希望分野別、学部別相談者数）

■月別相談者数（複数回答あり）

(件数)

月	ボランティア相談		学生スタッフ		センター企画		情報収集		その他		計	
	深草	瀬田	深草	瀬田	深草	瀬田	深草	瀬田	深草	瀬田	深草	瀬田
4月	38	32	80	60	4	0	21	16	0	4	143	112
5月	29	13	39	34	0	0	8	8	0	1	76	56
6月	27	17	1	2	0	0	4	14	0	1	32	34
7月	18	20	0	2	0	0	4	1	1	0	23	23
8月	2	4	0	0	0	0	0	0	0	0	2	4
9月	2	12	1	0	0	0	1	1	0	0	4	13
10月	10	22	0	0	0	6	3	5	0	3	13	36
11月	7	11	0	0	0	0	0	0	0	0	7	11
12月	12	5	0	0	0	0	4	2	0	0	16	7
1月	9	3	0	1	0	0	0	0	1	0	10	4
2月	2	4	0	0	0	0	1	0	0	0	3	4
3月	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
合計	157	143	121	99	4	6	46	47	2	9	330	304
両キャンパス年間計												634

■活動希望分野別相談者数（複数回答あり）

(件数)

希 望 分 野	相談者数		計
	深草	瀬田	
子ども・青少年	104	85	189
高齢者	28	22	50
障がい児・者	33	28	61
医療	16	9	25
国際協力・交流・在住外国人支援	56	39	95
人権	19	20	39
貧困	35	18	53
環境	68	56	124
災害	43	32	75
文化・芸術	39	28	67
スポーツ	27	18	45
動物愛護	43	23	66
平和	24	25	49
まちづくり	54	44	98
農業	36	29	65
中間支援	2	1	3
その他	2	8	10
合 計	629	485	1,114

■学部別相談者数

(件数)

所 属	相談者数		計
	深草	瀬田	
文学部	69	0	69
経済学部	30	0	30
経営学部	23	1	24
法学部	48	0	48
理工学部	0	0	0
社会学部	0	136	136
国際文化学部	0	0	0
政策学部	35	0	35
国際学部	50	0	50
農学部	1	57	58
先端理工学部	1	50	51
心理学部	26	0	26
短期大学部	6	0	6
大学院	0	0	0
他大学	0	0	0
教員	0	0	0
職員	0	0	0
無記入	0	0	0
合 計	289	244	533

■団体登録制度とボランティア募集情報シート

センターでは、ボランティアを募集する団体との協力・連携の体制を整備し、その団体の活動内容を把握することを目的として、団体登録制度を設けています。

校内でのボランティア募集情報の提供は、「団体登録票」を提出していただいた登録団体に限定しています。また、登録団体から広報依頼を受けたボランティア募集チラシは記載情報（実費弁償や活動保険の有無など）にばらつきがあるため、ボランティア相談に来室する学生に対してより詳しい内容の情報を提供することを目的として、団体登録時に提出されるボランティア募集情報シートを活用しています。

このボランティア募集情報シートは、ピアサポートの視点で、学生スタッフによって取り組まれているボランティアコーディネーション（授業の空き時間などを調整して、シフトを組んで実施）の際に活用されています。

2023年度は5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移

行となり、ボランティアの受け入れを再開した団体も増え、団体登録の数自体はコロナ禍と比較すると増えました。ただ、コロナ禍以前の水準には届かず、ボランティア受け入れについて引き続き検討されていた団体も多いと感じた1年でした。

24年度は年間を通して制限のなくなる1年となります。多くの団体がボランティアとのつながりを強固にしていきたいと考える年になると思います。スムーズに登録団体と学生をつなぐ事ができるように、情報の収集を継続し、登録団体と連携した活動を摸索していきます。



■団体登録数

(件数)

分野	京都府	滋賀県	その他 関西	関西 以外	合計
子ども・青少年	35	17	8	4	64
高齢者	1	2	1	0	4
障がい者	8	17	0	0	25
医療	3	3	0	0	6
環境	2	5	0	2	9
国際協力・交流・在住外国人支援	4	4	2	3	13
人権	1	0	0	0	1
災害	0	1	0	0	1
文化・芸術	5	3	0	0	8
スポーツ	1	5	1	0	7
動物愛護	0	0	0	0	0
平和	0	1	0	0	1
まちづくり	11	3	0	0	14
農業	1	0	0	0	1
貧困	0	1	0	0	1
中間支援	1	2	2	0	5
その他	2	4	1	1	8
合計	75	68	15	10	168

■外部団体来室内容と広報依頼件数

センターには、多くの団体からボランティア募集やイベント・講座・セミナーなどの広報依頼があり

ます。他にも、国や他大学からの視察、行政との連携に関する相談、さまざまなケースの来室に対応しています。2023年度の主な受付内容等については以下のとおりです。

■相談内容別（1件あたり複数内容の受付あり）

(件数)

相談内容	深草	瀬田	計
広報依頼（ボランティア募集）	108	122	230
広報依頼（ボランティア募集以外※）	311	241	552
視察・ヒアリング	7	1	8
取材	0	0	0
その他	5	0	5
合計	431	364	795

※講座、セミナー、イベント開催案内、ニュースレター等

■受付団体種別

(件数)

受付団体	深草	瀬田	計
NPO法人	79	63	142
社会福祉法人	78	64	142
一般社団・財団法人	36	21	57
公益社団・財団法人	52	75	127
その他の非営利法人	16	6	22
任意団体	26	41	67
幼稚園・保育園等	0	2	2
児童館・学童保育	0	1	1
小・中・高	1	1	2
特別支援学校等	0	0	0
教育委員会	8	4	12
他大学・専門学校	22	10	32
企業	32	33	65
公共施設・社会教育施設	32	7	39
官公庁	35	33	68
その他	10	2	12
学内	4	0	4
一般個人	0	1	1
合計	431	364	795

■広報分野別（複数回答あり）

(件数)

広報依頼分野別	深草	瀬田	計
子ども・青少年	107	86	193
高齢者	3	24	27
障がい児・者	37	44	81
医療	0	7	7
国際協力・交流 在住外国人支援	125	32	157
人権	2	0	2
貧困	34	25	59
環境	36	41	77
災害	2	10	12
文化・芸術	3	4	7
スポーツ	15	6	21
動物愛護	0	0	0
平和	23	23	46
まちづくり	29	30	59
農業	2	0	2
中間支援	76	18	94
その他	61	54	115
助成金	9	17	26
総合情報	20	16	36
ニュースレター	189	129	318
合計	773	566	1,339

チラシの配架やポスターの掲示

数あるボランティア情報やイベント・講座・セミナーなどの情報を多くの学生に提供するために、パンフレットスタンドにチラシを見やすく配架し、センターの掲示板に情報を掲示しています。

センター事務室内外でのラックの設置とチラシの整理、掲示板の管理などを学生スタッフが中心となって行っており、学生に向けたアプローチを工夫しコーディネーションに活用しています。



講義やゼミ（演習）でのセンター紹介

センターではボランティア活動のきっかけ作りを目的として、講義やゼミ（演習）の中で、センターの紹介を行なっています。

教員が希望する時間内で、コーディネーターや学生スタッフがセンターを案内し、センターの活用方法等を紹介しています。ボランティアに関心があってもなかなかセンターに来室するまでに至らない学生に、ボランティアの相談ができる場所が学内にあるということを知る良い機会となっており、今後も継続していきたい事業です。

【センター紹介実施一覧】

	日	対象学部	担当教員名	科目名等
1	4月11日(火)	社会学部	高松 智画	社会福祉実践論
2	4月21日(金)	農学部	入門ゼミ 3ゼミ	入門ゼミ（合同）
3	4月26日(水)	政策学部	石原 凌河	基礎演習
4	4月28日(金)	社会学部	柴田 和子	NPO・NGO 論
5	4月28日(金)	農学部	金子あき子	入門ゼミ
6	5月10日(水)	法学部	井出 真也	基礎演習15組
7	5月10日(水)	経済学部	松島 泰勝	入門演習
8	6月16日(金)	農学部	嶋田 大作	入門ゼミ（合同）
9	6月30日(金)	短期大学部	遅 力榕	地域福祉と 包括的支援体制
10	10月4日(水)	国際学部	古川 秀夫	国際文化実践Ⅱ F NGO/NPO 国内 インターンシップ



ホームページ

センターに関連する事業を積極的に発信しています。今後も閲覧する方にとって情報を得やすく、ボランティア活動のきっかけとなるようなホームページ運営を行なっていききたいと思います。



ボランティア・NPO 活動センター通信

学内向けのニュースレターを4月に発行しました。センター事業や学生の各種活動の報告と予定のお知らせ、センター紹介の案内などを掲載しました。

SNS (Facebook, X)

両キャンパスのコーディネーターと学生スタッフが協力しながら、タイムリーな情報を随時発信しました。各種センター事業、学生企画に関する情報だけでなく、学生スタッフの日常などを切り取り、センターの活動について、学内外に幅広く知っていただくように工夫しています。

Xでは2021年度より開始した「質問箱」を今年度も継続して設置し、学生からの質問を受け付けました。コーディネーターからだけでなく学生スタッフからも定期的にツイートを行ない、効果的な情報提供を行ないました。フォロワー数も増え、1,400フォロワーを突破しました。(2023年5月1,470フォロワー)。

【Facebook 配信数】

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
配信数	1	2	2	4	1	10
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
配信数	6	8	1	4	2	9
				合計		50

【X 配信数】

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
配信数	25	21	22	25	10	35
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
配信数	34	29	5	10	20	51
					合計	287



Facebook



X



ホームページ

事業名 サークルへのボランティア促進・支援『サークル×ボランティア活動相談会』

実施期間 2023年4月～2024年3月（随時）

参加サークル 龍谷 FARM/Sept Couleur/龍谷祭実行委員会/社会学部学会

1. 経緯・目的

本学学生のボランティア促進の一環として、学内サークルに向けた地域活動のサポートや関係構築、センターの認知度向上を目指し、この相談会を適宜開催しています。

「自分たちの活動で地域に貢献したい」「活動の場を探している」「サークルの運営について悩んでいる」など、寄せられるさまざまな理由の相談に個別対応しています。

2. 概要

2023年度の相談は、以下の通りです。

(※はボランティア系サークル)

対応日	キャンパス	サークル名
4/21	瀬田	龍谷 FARM
4/27	瀬田	Sept Couleur ※
5/11	深草	龍谷祭実行委員会
5/19	瀬田	Sept Couleur ※
6/20	瀬田	社会学部学会
7/6・7/20	瀬田	龍谷 FARM
9/29・10/4	瀬田	Sept Couleur ※
11/5	瀬田	社会学部学会

3. 参加者の声・得られた効果など

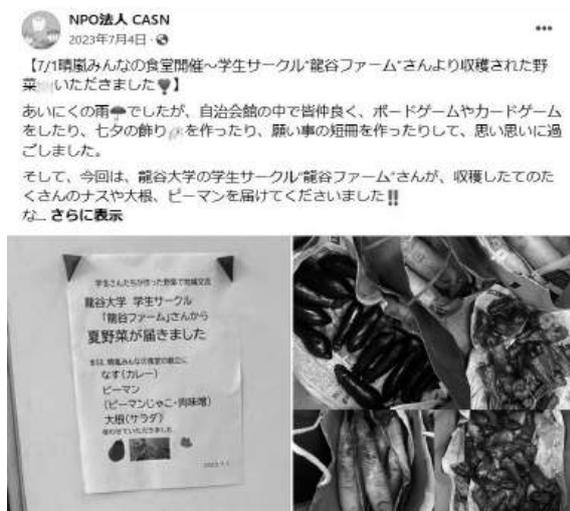
主な相談内容は以下のとおりです。

【地域でのボランティア活動や運営に関する相談】

- ・昨年度から継続して相談を受けている「自分たちの活動を地域貢献に活かしたい」というサークルに、具体的にセンターでボランティア募集をされている団体とつないで、相談しながら進めました。
- ・「メンバー全員で活動できるボランティアを探している」というサークルに、活動先をいくつか紹介したり、何グループかに分かれて活動した情報を共有することなどを助言しました。
- ・「学内の助成金を活用して、地域住民の交流の場をつくることを考えている。それが実現できそうな施設や場の持ち方について相談したい」という相談に対し、どのようなイベントがしたいのか聞き取り、公や民間運営の各種施設を紹介しました。

【学内での活動や運営に関する相談】

- ・「サークルのリーダーとしてメンバーに伝える場面が多いので、上手く話す・伝えるコツを知りたい。センター主催のボランティアリーダー養成講座があれば参加したい」という相談に対し、講座を案内する他にリーダーとして押さえておいた方が良い点などを一緒に考えて整理しました。
- ・「メンバーに活動呼びかけても数人しか集まらない」という相談に対し、まずはサークル内で交流する場を設けながら、少しずつ活動していくことなどを助言しました。



農業サークル『龍谷 FARM』が、自分たちで収穫した野菜を『NPO 法人 CASN』運営の子ども食堂へ提供しました。

4. コーディネーター所感

昨年から引き続いて相談を受けているサークルがあることは、当センターの利用が定着してきていると考えられますが、その他のサークルへの広がりが少ないことが課題となっています。

学生部が毎年オンライン実施している学内の一般同好会向け登録説明会では、広報の時間を設けてもらうことが難しく、チラシの共有程度にとどまってしまうのが現状です。本事業の広がりには、年度初めか代替わりした時点でボランティア系サークルに向けてこの取り組みを知ってもらう機会を独自に設けるなど、新たな仕掛けが必要だと感じています。

〈報告者：ヒギンズ 尚美

(瀬田キャンパス コーディネーター)〉